

ふるさと再発見

第11代島原城主 戸田 忠寛公（1739・1801年）

戸田忠寛公には男児が一人いましたが、早くに亡くなってしまいました。家督は弟の忠寛公に譲られ、忠寛公が藩主となりました。

島原藩では、農村の疲弊や財政悪化が課題となっており、忠寛公が内政に心を砕いたことが想像されます。実際に、1767（明和4）年には、15年の期限付きで藩札（藩が独自に発行した紙幣）を発行したい旨を幕府に要請し、財政の立て直しを試みています。

1774（安永3）年、松平忠恕公と交代する形で旧領の宇都宮藩へ戻るようになります。

戸田氏は幕府の要職を歴任する、吏僚タイプの大名と言えます。忠寛公も1770（明和7）年、奏者番に任命されたことを皮切りに、寺社奉行、大坂城代、京都所司代と幕府の要職を歴任しました。

京都所司代であった1787（天明7）年には、「御所千度参り」

が起きました。これは、飢饉に苦しんだ人々が御所に救援を求めて起きたものでした。朝廷は食料を配るなど救援対策を行いました

が、事態を憂慮した光格天皇は、京都所司代（忠寛公）を通じて民衆への救済を幕府に要請し、幕府は米を配給して対応しました。

忠寛公は1798（寛政10）年に引退し、長男の忠翰に家督を譲ります。1801（享和元）年に六十二歳で亡くなりました。

（地域おこし協力隊 吉岡 慈文）



（島原藩発行の藩札・榊原郷土資料館蔵）

地域おこし協力隊コラム

協力隊、なんしょっと？

地域おこし協力隊 上田 友

昨年12月から地域おこし協力隊として活動している上田友です。

私は島原で生まれ育ち、高校卒業後、この地の素地を持ちながら四半世紀を県外で生活してきました。

外からの視点で感じることを大切にしながら、先人たちへの敬意と感謝の気持ちを持って、島原で暮らす日々の生き甲斐や、誇りを見つけていきたいと思っています。

朝の気分や、天候によって、自転車、徒歩、島鉄バスと通勤手段を変えながら、島原の景色を楽しんでいます。船の汽笛や島原鉄道の音を聞きながら、有明海と眉山を見てみると、自然の恵みに囲まれた素晴らしい環境だなあと、あらためて実感しています。美味しい食材、豊かな食文化に感謝します。

スーパーへ行くと、私にとっては懐かしい食材や惣菜が並



んでいます。他県出身の妻にとっては珍しい物が多々あるようで、興味津々です。少しずつでも島原の食材を使った郷土料理などを学んで、食卓に一品ずつ並び増えていくことを楽しみにしています。

夫婦で何かしらの発見を伝えあう日々は、とても楽しく新鮮です。時間が経つと慣れてくるのですが、早く慣れたいと思います。今だからこそ気付く日々の新鮮さを大事にして、新たな島原を知り、楽しみたいと思います。皆さん、よろしく願います。

▼問い合わせ先 島原ふるさと創生本部（☎8012）

